

技術造形学科1期生の皆さんへ

2000.4.13

技術造形学科 長嶋洋一

入学おめでとうございます。技術造形の長嶋です。このletterは、明日4/14の学生ガイダンス後の学科ミーティングに私が参加できないために、開学式・入学式の当日である4/13の朝に研究室で急いで書いて、皆さんに配付していただくようお願いしたものです。4/14には顔を出せませんが、皆さんを精一杯フォローアップしていくつもりですので、他の先生がた同様に、どうぞよろしく申し上げます。(^^)

大学のこと、学科のこと、初年度の履修登録のこと、等は学科ミーティングで話題になると思いますので、ここでは皆さんへ私からの個人的なメッセージをお送りしたいと思います。いままさにスタートしたばかりの新大学ですが、学科長の松原先生、そして主に望月先生とともに、私は皆さんがまだ中学生であった頃から、このSUACのデザイン学部、そして技術造形学科という新しいコースについて白紙から検討してきました。デザインとアートの領域で、現在の/これからの、そして日本/世界にとって求められている人材を出現していくにはどうしたらいいか、という「夢」を熱く議論して検討してきました。そして、いま現在、SUACの技術造形学科のようなカリキュラムは世界にも例のない意欲的な構成となっている、というのは事実です。皆さんはその記念すべき第1期生として、われわれ教員とともにその歴史をスタートさせていく、これはお互いにとって素晴らしいチャンスであり出会いなのです。心から歓迎し、そして一緒に楽しくやっていきたいと思っています。

まだ実体のないSUACの入試に挑戦した皆さんも勇気が要ったと思いますが、推薦入試・前期入試・後期入試の監督や面接や採点をしてきて、皆さんの並々ならぬ意欲と才能に圧倒され、あらためて気を引き締めたのは、われわれ教職員も同じです。ここに揃った1期生の皆さんの持つ可能性と潜在能力をさらに伸ばしさらに引き出し、優れた人材として世に送るのはわれわれの責務です。もちろん皆さんも、いま現在のところで持っている前向きな意欲や夢を忘れることなく、どんどん自発的にあらゆることにチャレンジして欲しいと思います。「求めよ、さらば与えられん」という言葉は、「求めない者には何も与えられない」という厳然たる事実も意味します。高校までと違って、大学というのは黙って待っていても何も「教えて」はくれません。自分から学ぼうとして求める姿勢に対しては、いくらでも支援し伸ばしてくれるところなのです。この点は、スタートのいまの時期にしっかり認識しておきましょう。

さて、ここで私から皆さんに一つお願いがあります。せっかくの機会として、第1期生の皆さんを私としても全面的に応援していきたいので、そのための仕組みだと思って下さい。皆さんは技術造形学科の必修科目や選択科目で、私の講義/演習を数多く取ることになりますし、初年度は後期に私の「情報処理III」(Webデザイン中心、実質的には技術造形学科の学生には必須科目)を取って、顔合わせすることになります。しかし、これではあまりに遅く、せっかく夢と希望を持っている「今」からの時差がもたないないので、私の講義がスタートしていない前期から、皆さんとの接点を持ちたいのです(私は他人の名前や顔を覚えるのが苦手なのですが、1期生の皆さんについては全員の名前と顔を覚えるぐらいまで知り合いたい、と思っています)。そこで、新学期のなるべく早い時期に、皆さんそれぞれ個人的に私の1106研究室に遊びに来てもらって、自由に話をしましょう、という誘いです。皆さんの夢・希望・展望を知りたいですし(そこから適切なアドバイスが生まれます)、私という人間も知って欲しいです。ちょうど一昨日、読売新聞浜松支局

から私の研究室に取材に来ましたので、ここ数日のうちにどこかに載るかもしれませんが、私の研究室にはアヤシイものがいくつも並んでいて、記者にウケていました。それも体験していただけます。

私は当面、毎週金曜日だけ不在となり、あとは月曜日から木曜日までは(実は土日も来ています(^_^;))、たいてい学内、研究棟北棟の1106研究室にいます(朝型人間なので、特に朝は早いです)。いつでも誰でも気楽に来てもらえるように、ドアは常に開いています。ただし、一度に多数が入れるというものでもないので、基本的には「まずはアポを取ってから」という社会常識を実行して下さい。つまり、まずは事前に、何月何日の何時ぐらいに時間を取って、というアポイントを取って下さい。研究室に顔を出してでも電話でも(本当はメールがいいのですが、それをこれからまず学ぶので無理ですよ(^_^;))、一人あたり30分か1時間程度の時間をなんとか作り出して下さい。アポ無しでも、たまたまその時間が空いていればその時でもそのままOKです。コーヒーぐらいは出します(ただしシュガーはありません)。この「1106研究室訪問ツアー」は、基本的には一人、あるいは二人ずつぐらいまで、としたいと思います。皆さんの一人一人の個性をなるべく覚えて、SUACでやってみたいこと、将来やってみたいこと、等について知って、より効果的な大学生活を送れるように支援したいと思っています。(^^)

また、これとは別に、皆さんの中で特に「音」にはウルサイぞ、という人には、別途「虎の穴」を構想しています。私はある時はシステムデザイナー、ある時は作曲家、ある時はイベントのディレクターでもあるのですが、Computer Music、Computer Sound、Live Performance、あるいは Media Art、という領域に興味ある皆さんについては、さらに徹底的に支援したいと思っています。1106研究室をその溜り場として提供し、在学中から皆さんの作品を発表する場を求めて活動していきたいと狙っています。このあたりに興味のある人は、どうぞどんどん「求めて」きて下さい。それから、新大学ということで、まだサークルがありません。でも、他大学とかのサークルに単なる「頭数揃え」として勧誘されるというのも情けない話です。せっかくですから、どんどん自分たちでサークルを作っていき、やりたいことを実現しましょう。私も学生時代にはサークル三昧で青春した(自分の入学式までに7つのサークルに入っていました(^_^;))クチですので、全面的に応援します。特に音楽系、「軽音」(バンド系)、「合唱団」、「バロック同好会」、「ジャズ研」などについてはぜひとも顧問として支援させていただきたいので(自分もやりたかったりして)、こちらの声もかけて下さい。大学は勉強だけする場なんてことはないのです。なんにでも全てチャレンジして、全力で完全燃焼して、全人格を形成する場なのです。

以上、長くなりましたが、もう1時間も書いてきてしまいましたので、このへんにします。とにかく、この出会いをチャンスとして、皆さんとともに私もまだまだ勉強したい、成長したい、青春したいと思っています。一緒に頑張りましょう。(^^)

